



TOHOKU UNIVERSITY



# 災害に強くしなやかな社会創造イニシアティブ ～俯瞰的で統括的な実践防災学～

## 令和4年度における活動実績・成果の概要

### 令和4年4月 災害レジリエンス共創センターの開設

<https://irides.tohoku.ac.jp/organization/resilience-center/resilience-center.html>

令和3年4月に施行された科学技術・イノベーション基本法において、科学技術があらゆる分野の知見を総合的に活用して社会課題に対応していくという方針が示されました。これは、我が国の科学技術・イノベーション政策が、人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資することの必要性とその方向性を指したものです。これらを背景に、東北大学災害科学国際研究所と学内の部局が連携し、「総合知」を活用して社会の「災害レジリエンス」の向上を実現する「災害レジリエンス共創センター」を設立しました。

『災害レジリエンスの共創と防災総合知構築への挑戦』（2022年5月11日開催） 約300名のご参加頂きました。

<https://irides.tohoku.ac.jp/event/co-creation/sympo2022.html>

[https://irides.tohoku.ac.jp/media/files/\\_u/topic/file/20220511\\_report.pdf](https://irides.tohoku.ac.jp/media/files/_u/topic/file/20220511_report.pdf)

### 災害デジタルツイン・コンピューティング基盤の構成

『災害レジリエンス共創研究プロジェクト』（2022年度 応募期限：2022年6月17日）

[https://irides.tohoku.ac.jp/research/co-creation\\_project/](https://irides.tohoku.ac.jp/research/co-creation_project/)





# 災害に強くしなやかな社会創造イニシアティブ ～俯瞰的で統括的な実践防災学～

## 令和4年度における活動実績・成果の概要

### 南海トラフ地震臨時情報プロジェクト

[https://irides.tohoku.ac.jp/research/interdisciplinary/nakaitrough\\_secom.html](https://irides.tohoku.ac.jp/research/interdisciplinary/nakaitrough_secom.html)  
 南海トラフ地震発生の可能性が平時より高まった場合、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されますが、実際の発生の有無や発生場所等には不確実性があり、実効的な対応計画の作成が課題です。そこで、令和2～4年に、セコム科学技術振興財団の助成をいただき、地方公共団体や企業などの組織の対応計画の作成を支援するための知見や処方箋などを詰め込んだパッケージを開発し、社会への浸透を図ることを目的とした研究プロジェクトを実施しました。

#### 【プロジェクト成果物】

南海トラフ地震臨時情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージ（2023年3月改訂）

[https://irides.tohoku.ac.jp/media/files/archive/NankaiTrough\\_Package\\_230313.pdf](https://irides.tohoku.ac.jp/media/files/archive/NankaiTrough_Package_230313.pdf)

### 東北大学減災教育「結」プロジェクト

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/social/relation/03/relation0301/>

東北大学では、東日本大震災の経験と教訓を踏まえ防災・減災についての様々な取組みを「減災教育事業」として行っており、その取組の1つとして2014年度より、「減災教育『結』プロジェクト」と名称を改め、2023年度にはプロジェクト開始10年目を迎えました。

## 研究推進体制・アウトプット

